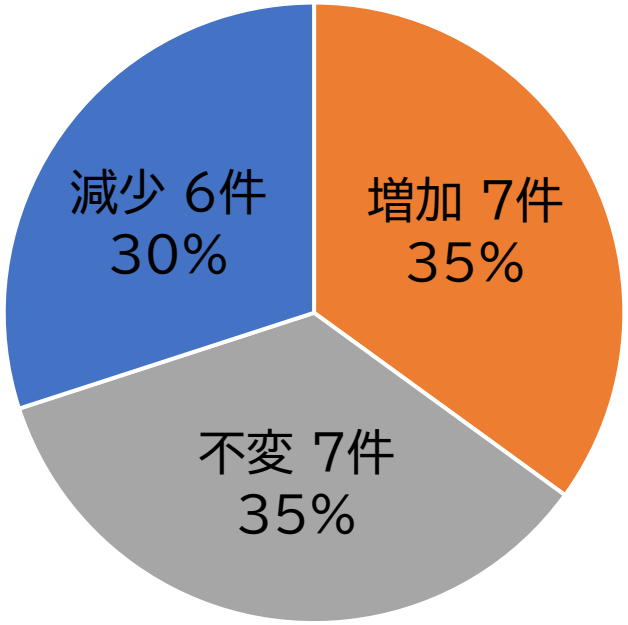
令和8年度景況調査

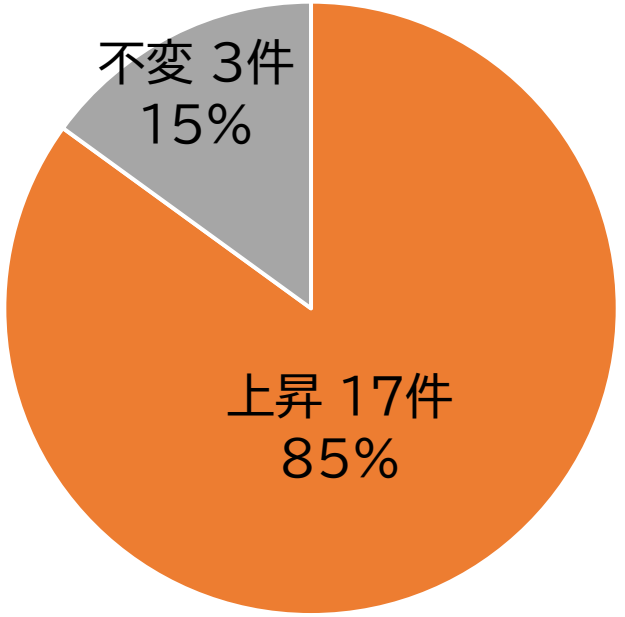
第二四半期(7月～9月)

調査結果①

売上高の状況（前年同期比）

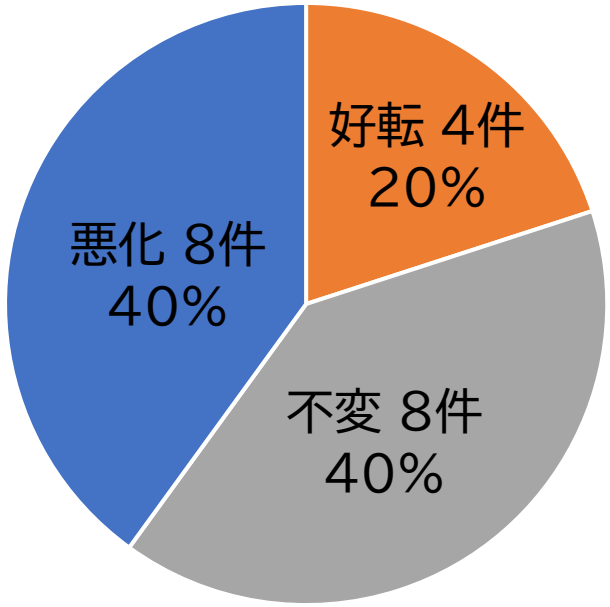


仕入高の状況（前年同期比）

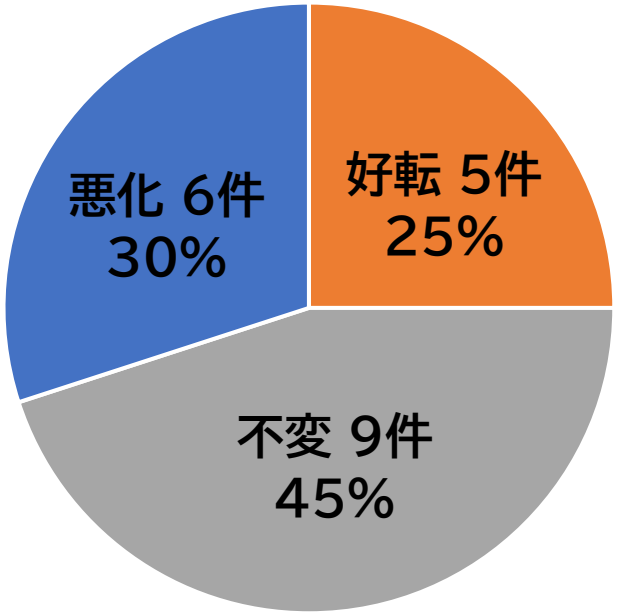


調査結果②

経常利益の状況（前年同期比）

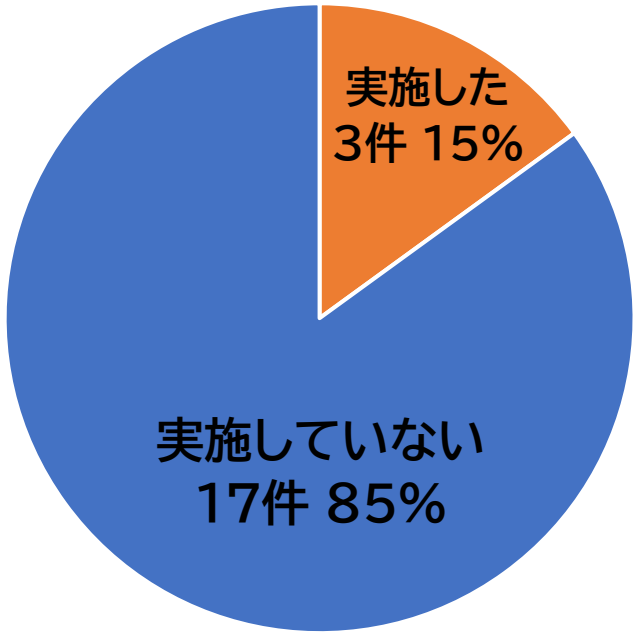


自社の業況（前年同期比）

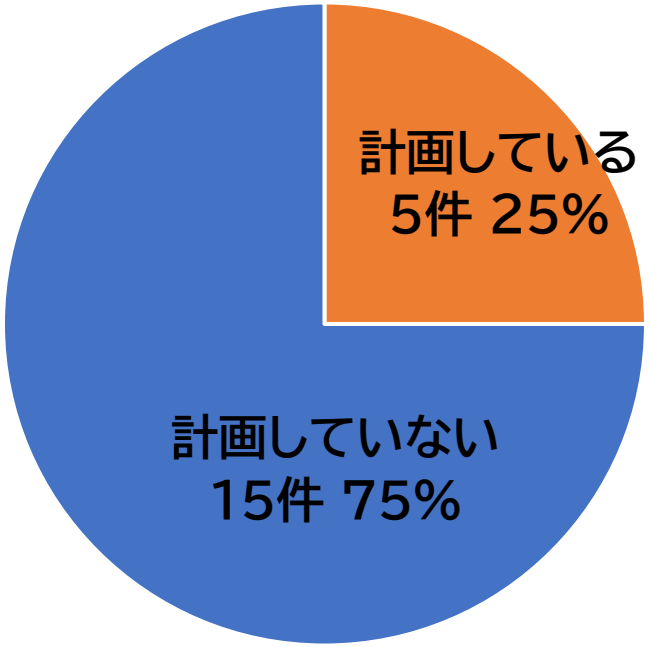


調査結果③

設備投資の実施（今期）



設備投資の実施（来期）



【分析結果①】
売上は底堅くも、続く「仕入れコストの高騰」

売上高は、前年と比べて「増加（35%）」と「変わらない（35%）」を合わせると70%となり、売上自体は維持・拡大傾向にあります。

一方で、仕入高については原材料や仕入価格が「上昇した」と回答した事業所は85%に達しました。エネルギー価格や原材料費などの高騰が、依然として幅広い業種に影響を与え続けています。

【分析結果②】
コスト高が利益を圧迫

経常利益は「悪化（40%）」が「好転（20%）」の2倍となり、厳しい状況が伺えます。売上が保たれていても、急激な仕入コストの上昇分を価格転嫁しきれず、利益が削られている事業所が多い傾向にあります。

自社の業況は全体として「変わらない（45%）」が最多で踏みとどまっているものの、「悪化（30%）」が「好転（25%）」を上回る結果となりました。

【分析結果③】
先行きに向けた「前向きな投資」の動きも

　設備投資について、今期中に「実施した」事業所は15%にとどまり、慎重な姿勢が目立ちました。

　一方で、来期に向けては「計画している（25%）」事業所が増加（10ポイント増）しています。厳しい経営環境の中にあっても、省力化・効率化や新たな事業展開に向け、前向きな投資を検討する動きが広がりつつあります。

まとめ

　足元の物価高・コスト高が地域の事業者にとって大きな課題となっていますが、業務改善や未来への投資に向けて挑戦する動きも見られます。

　商工会では、価格転嫁や資金繰り、設備投資に伴う各種補助金の活用など、事業者の皆様をきめ細かくサポートしてまいります。ぜひお気軽にご相談ください。